



問 災害時、村の避難所の収容人数は

答 白方小 200 人など計 1500 人



みすずの会
あべ こうし 議員

問 災害時、村内避難所の収容人数などは。

答 石神コミセン148人、白方コミセン130人、石神小180人、白方小200人。村全体で1508人。対応する職員は避難所1カ所に4人・2交代で運営する予定。

問 原子力災害時、避難先の体制は

答 避難先や県と調整協議を進める

問 本村の避難先は取手・守谷・つくばみらい市で、1避難所の平均は341人、713人。本村の例から見て、

とても収容しきれない。駐車場も避難用車両も対応する職員も足りず、ペットは受け入れない。この上感染症対策を加えれば実効性のある計画策定は不可能だが。

答 引き続き県南3市や県と必要な連絡調整や協議のほか、避難所の追加指定やホテル・親戚等への避難に関する周知等、課題の整理を進める。新型コロナウイルス感染症対策を取りながらの避難先自治体職員による避難所開設が可能な場合は、場合によっては実動型での検証も必要と考える。



避難先のひとつ 白方コミセン
(駐車場の工事中)

問 保育施設改善は学校以外の場所で

答 官民既存施設の活用等を考えたい



おおな みえこ 議員

問 全国学童保育連絡協議会は、児童の安全・安心な生活保障の側面から、大規模化では厳しい生活を強いられる、指導員や友達と関係がつかれない、他2点あげている。本村の現状は。

答 入所対象は全学年集団の規模は概ね40人以下を「支援の単位」とし、放課後児童支援員は「支援の単位」ごとに2人以上配置する。放課後児童クラブ運営指針に基づき適正に対応している。

問 適正とはいえワンフロアに多人数なのはどうか。場所の確保で

は生活の場、育ちの場としての環境整備が重要。文科省の「放課後子供教室」とは質的に違う。本村の学童保育はどうあるべきか。

答 保護者との信頼関係、家庭と学童クラブの情報共有に努め、児童が安心して生活できる「第二の家庭」的環境づくりに努める。

問 昨年の白方小での新たな子ども居場所づくりの可能性検証もあるが、学校ではない場所の活用を。

答 官民既存施設の活用等を考えたい。



8月31日現在の登録者数が115人の中丸学童クラブ

一般質問